

# あさおの町会・自治会 vol.34

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



## 亀井自治会 会長 上川原 優

亀井自治会は、昭和44年に発足し49年が経過しようとしています。自治会の「亀井」は、かつてこの地に「亀井城」があったと郷土史などに記録されていたことに由来しています。「新編武蔵風土記稿」に「村の東をいへり、亀井と云々居住せしより、かくよべりともいへり」とあり、伝承によると「亀井」は源義経四天王の一人「亀井六郎」とされています。麻生川東岸、鶴見川の向かいに南に突き出した台地一帯が伝承地で、台地東端に「月読神社」が鎮座しています。月読神社は、約450年前、武蔵国都築郡麻生郷領主小島佐渡守が、打続く応仁の乱の苦悩にあえぐ領民のため天下泰平五穀豊稔を祈願して、伊勢皇大神宮別宮月讀宮の分霊を勧請、1534年(天文3年)に亀井城の卯の方(東側)に社殿を建立したとされています。その月読神社の西側

一帯、つまり、亀井城があったとされる場所に「亀井住宅(自治会)」があります。現在「亀井」という名は、当自治会名とバス停留所、鶴見川に架かる橋の名に残すのみとなりましたが、歴史上極めて由緒ある地名であるといえます。また、発足当時は警察官の方が多く住んでいたことから、通称「警察団地」といわれた時期もありました。

当自治会は、先に述べたように、麻生台団地の南側、月読神社の西側に位



月読神社

置する高台にあることから独立性が高く、現在は120世帯が加盟しています。会員は、発足時から居住されている方、代替わりしたご家族が引き続き居住されている方、新たに引っ越しされてきた方などさまざまですが、皆さん明るくあいさつを交わすなど穏やかに生活しています。住民の高齢化という課題もありますが、若い世帯も増え、子どもたちの元気な声も聞かれるようになりました。

年1回の自治会総会、ゴルフコンペ、陶芸教室などで親睦を深めているほか、道端に季節ごと色とりどりの花を咲かせる活動をされている方もおり、心なほせていただいております。特に婦人部は、食事会などで積極的に親睦を深めています。女性が元気であることが地域を明るくする源になっています。発足当時から大きな事件事

故、災害に見舞われることがなかったのは、こうした地理的条件や住民間の親密性などが要因ではないかと思いますが、防犯灯のLED化、防犯カメラの設置などの防犯対策、感度ブレーカー遮断装置の各戸配布など災害対策も推進しております。

当自治会は、住民の皆様が笑顔で安心して生活できるよう、今以上に「絆」を深めてまいりたいと考えています。



住宅からの風景

## 北イトーピア自治会 会長 伊東 鉄夫

私たちの自治会は昭和51年に設立され、今年で43年になります。南を東京都町田市と接する当自治会は、小田急線柿生駅から徒歩圏内の片平3丁目内に東京ドーム約2.2個分の広さを持ち、約230世帯が暮らす緑あふれる住宅街です。

この狭い地域の中には4ヶ所の公園があります。中でも仲町遺跡公園は今から4,000年前の縄文時代の柄形住居跡として考古学者の注目の的でもあります。私たちの先人たちは、4,000年も前からこの地に暮らしていたと思うと壮大な浪漫を感じてしまいます。

自治会行事のメインは自主防災訓練です。今年度初の試みとして、川崎市より災害時避難場所に指定されている柿生小学校において防災訓練を実施しました。避難所への避難経路

の確認、消火訓練や起震車・煙体験、炊き出し訓練に加えて簡易トイレの組み立てなど麻生消防署の指導の下、参加者全員が真剣な面持ちで訓練を体験しました。

防犯対策にも積極的に取り組んでいます。長年の懸案だった防犯カメラ設置を昨年度達成することができました。主要道路沿いに防犯カメラを設置すると共に、各戸には防犯カメラ作動中のマナープレートを貼っていただき、より効果的な空き集防



仲町遺跡公園

犯対策を実施しています。

また、自治会有志により毎月第3日曜日に行われているお散歩パトロール隊も犯罪発生抑止力の一助となっております。

環境美化活動に関しては、カラスの被害が深刻化する中、可動式折りたたみゴミカゴの設置を完了しました。これまでのゴミネットに比べ格段に使い勝手が向上しました。

私たち北イトーピア自治会は、市内統一美化活動期間ばかりでなく、いつでもどこでも住環境を守るために全会員が住環境の整理・整頓を心掛けて実践しています。これは、「北イトーピア自治会宣言」として内外に発信しているところでもあります。

最後に、自治会は親睦団体であるといわれてきましたが、東日本大震

災以降、その意義が明らかに変わっています。すなわち、地域の絆を大切にしたいという意識が、地域を大切にした支え合いの輪であるということです。当自治会では民生委員さんと協力して一人暮らし家庭、老夫婦家庭、要支援・要介護認定者、災害時要援護者などの情報を集約し、災害発生時は元より普段の生活の中でも互いに支え合っている自治会を目指してこれからも活動を行ってまいります。



仲町遺跡西側付近からの風景

## あさお区内地域紹介

### 栗木町内会のどんど焼き

栗木町内会 会長 仲林 久夫  
栗木町内会のどんど焼きは、青年部が中心となり近くの竹林から孟宗竹や篠竹を切り出し、栗木御嶽神社境内に円錐形のやぐら「賽の神」を組み上げお飾りをつけます。やぐらの高さはおおよそ8メートル。どんど焼き当日は子ども会のお母さん方が中心となり上新粉でだんごを作ります。住民たちが三々五々境内に集まり、家庭から持ち寄っ



栗木町内会のどんど焼き (昨年開催時の様子)

## どんど焼き

たしめ縄、破魔矢、ダルマ、書初めなどをやぐらに差し込み準備が整います。神事が厳かに執り行われた後、火を点けます。「賽の神」は、煙とともに高々と燃え上がります。火の勢いが少しおさまった頃、篠竹にさした団子を火であぶり、熱々をいただきます。「この団子を食べると一年無病息災でいられる」「書初めを燃やすと字がうまくなる」といった伝承も、転居されてきた住民にも伝えられています。

### 山口台自治会のどんど焼き

山口台自治会 会長 渡辺 孝一  
山口台自治会では、平成6年に第1回「どんど焼き」が開催され、今回で25回目になります。昭和63年に宅地造成事業が終わり、山口台自治会がスタートしました。当初世帯数はわずかでしたが、世帯数の増加と共に「住民交流委員会」(現在の文化部)を組織し、会員間の

交流を深めるための行事が検討されました。結果、地元で行われていた「どんど焼き」が決定されました。どんど焼きは管内の空き地を利用して行っていました。住宅建設が進み空き地の確保が難しくなり、近年は麻生中学校さんの校庭をお借りして開催しています。会場の準備は男性陣が担当、女性陣が「団子400~500個とおしるこ」を作ります。1月12日(土)午後1時に点火され火勢を見計らいながら団子が焼か



山口台自治会の麻生中学校でのどんど焼き (昨年開催時の様子)

れました。部活が終わった中学生も参加し、無病息災、家内安全、五穀豊稔を祈念し終了しました。近隣の皆さんにはご迷惑をかけましたが無事終了しました。

**麻生区のデータ**  
(平成31年1月1日現在)

人口	178,883人
世帯数	77,465世帯
町会加入世帯	47,690世帯

市の新成人 (平成30年11月30日現在)

麻生区	川崎市
1,928人	14,187人

平成10年4月2日~平成11年4月1日に生まれた市民 (市内住民登録者及び外国人登録者)